

都城市内遺跡6

- *The Sites excavated in Miyakonojō City (6th)* -

2013

都城市教育委員会

序文

本書は、都城市教育委員会が各種開発に対し埋蔵文化財の保護を図る為、平成24年度に国県補助を受け実施した市内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。この報告書が各種開発事業の際の協議や調整に利用されるとともに、学術資料としても活用していただければ幸いです。

試掘・確認調査に従事していただいた市民の皆様をはじめ、地権者ならびに開発関係者の御協力を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成25年3月

都城市教育委員会
教育長 酒匂 釺以

例言

1. 本書は、各種開発に伴い、都城市教育委員会が国県補助を受けて平成24年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書で、市内44地点（事業）において実施した試掘・確認調査の成果を掲載した。
2. 調査主体 都城市教育委員会
教育長 酒匂釺以
教育部長 池田文明
文化財課長 新宮高弘
副課長 松下述之
主幹 桑畑光博
調査担当 桑畑光博・栗山葉子・近沢恒典・加覧淳一・早瀬 航
庶務 松村美穂
3. 本書に用いた現場写真の撮影及びトレンチ配置図、土層断面図の製図は近沢が行った。
4. 土器の実測は調査員の指導のもと整理作業員が行い、製図は近沢、石器の実測・製図は栗山が行った。
5. 本書に記載した図面の製図・編集はAdobe IllustratorCS5.1にて行った。
6. 出土遺物と各種記録類は都城市教育委員会で保管している。

目次

1. 試掘確認調査の記録	2
表1 平成24年度市内遺跡試掘・確認調査一覧	2
図1 平成24年度市内遺跡試掘・確認調査地点	3-4
2. 田辺開拓第2遺跡①②	7
図2 調査区位置図	8
図3 調査区・トレンチ・遺構配置	8
図4 土層模式柱状図	8
図5 トレンチ土層	9
図6 調査区土層	10
図7 竪穴状遺構・畠跡	11
図8 出土遺物1	12
図9 出土遺物2	13
図版 遺構・遺物	14

1. 試掘確認調査の記録

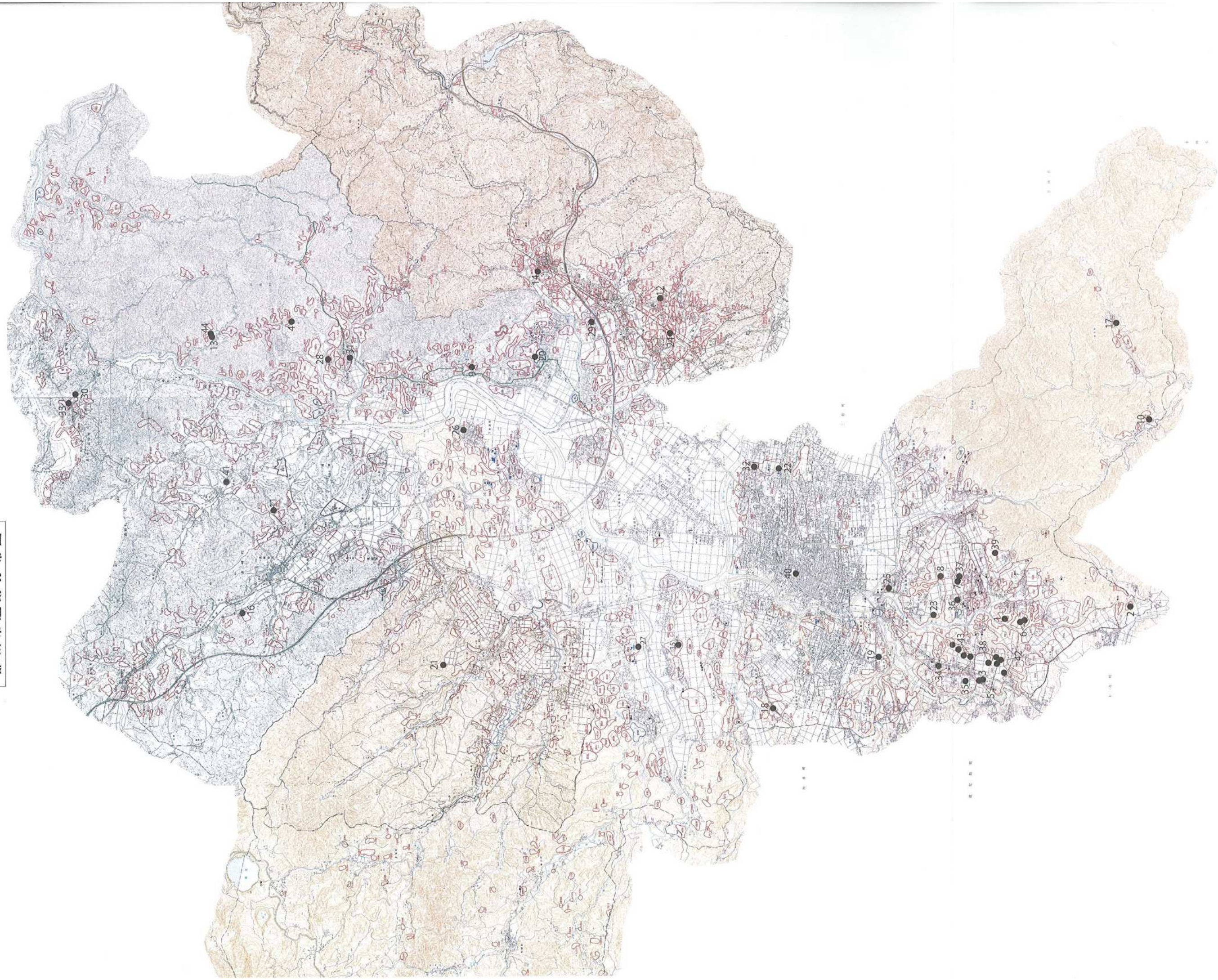
都城市は宮崎県南西部に位置し、東から南は鰐塚山・柳岳を主峰とする鰐塚山地に、北西は高千穂峰を主峰とする霧島連山に囲まれた都城盆地をほぼ占めている。当市の面積はおおよそ 653Km²と広く、標高は最高（高千穂峰山頂）で 1,574 m, 最低（高城四家の本八重）で 56 m, 市街地で約 150 m である。河川は大淀川を含む 7 本の 1 級河川が葉脈状に流れ、それらに多数の小河川が流れ込んでおり、地下水や湧水に恵まれている。

本書は、公共事業や民間開発等の各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県の補助を受けて平成 24 年度に実施した遺跡の試掘・確認調査について報告するものである。

遺跡名	所在地	調査原因	調査期間	調査面積 (m ²)	対象面積 (m ²)	主な時代	主な遺構・遺物
1 大年遺跡	梅北町13659-1	その他開発(携帯電話基地局)	4.12	9	100	なし	なし
2 川原谷出水	梅北町11125-2	その他開発(携帯電話基地局)	4.17	4	100	縄文	土器
3 女橋遺跡①	今町7761-1	その他開発(携帯電話基地局)	4.18	4	100	なし	なし
4 久井ヶ野第1遺跡	高城町有水2200外	農業関連事業(畜舎)	4.24/5.9	44	13,739	縄文・中世	土器・石器・遺跡
5 女橋遺跡②	今町7745-1外	農業関連事業(天地返し)	5.16/6.20	16	8,047	縄文	土器
6 中床丸遺跡①	梅北町13545-1外	農業関連事業(天地返し)	5.18	28	6,518	弥生・古代	竪穴住居・土器・土師器
7 梅北北原遺跡①	梅北町1863	農業関連事業(天地返し)	5.22	4	1,311	なし	なし
8 京之峯遺跡	下長飯町1132-1	農業関連事業(天地返し)	5.24	8	2,502	なし	なし
9 城ヶ尾遺跡	高城町石山4477-1	その他開発(携帯電話基地局)	6.7	3	100	なし	なし
10 安久石原第3遺跡	安久町3808	その他開発(携帯電話基地局)	6.7	4	36	なし	なし
11 鍋前第3遺跡	高崎町大牟田5752-4	その他開発(携帯電話基地局)	6.11	4	100	なし	なし
12 富吉山田遺跡	山之口町富吉1477-1	個人住宅	6.11	8	374	縄文・古代	土器ほか
13 田辺開拓第2遺跡①	高城町有水1955-57外	農業関連事業(畜舎)	6.13-7.19/ 11.26-12.4	236	12,746	縄文・古代	竪穴状遺構・土器・石器
14 屋倉遺跡	山之口町山之口3909-1	その他開発(携帯電話基地局)	6.2	4	130	縄文	集石
15 上月野原第1遺跡	乙房町2374-1外	その他建物(福祉施設)	6.26	20	3,298	近世	遺跡
16 下向田平遺跡	高崎町大牟田4740-1	その他開発(携帯電話基地局)	7.3	2	100	なし	なし
17 下尾平野第4遺跡	安久町3517-5	その他開発(携帯電話基地局)	7.3	3	3,844	縄文	土器・集石
18 池ノ元遺跡	養原町1900-1外	宅地造成	7.5	20	8,328	弥生・中世	土器
19 松ヶ迫遺跡	都島町1342	その他開発(携帯電話基地局)	7.10	4	130	縄文	土器
20 社ヶ原遺跡	高城町大井手2705-1	その他開発(携帯電話基地局)	7.10	3	38	なし	なし
21 枠外(一堂ヶ丘周辺)	山田町山田5039	ゴルフ場(パークゴルフ場)	7.23	33	18,800	なし	なし
22 祝吉第3遺跡	早水町3513外	宅地造成	7.25	24	3,797	弥生	竪穴住居・土器・石器
23 横尾原遺跡	大岩田町5995-1	その他開発(携帯電話基地局)	7.30	2.6	130	縄文	石器・集石
24 富吉平遺跡	山之口町富吉2168-2	その他開発(携帯電話基地局)	7.30	4	38	縄文・弥生・中世	土器・石器・柱穴
25 城ヶ尾遺跡	下長飯町685-17外	その他建物(消防団詰所・車庫)	8.7	6	506	なし	なし
26 倉内遺跡	下水流町3305-1	その他開発(携帯電話基地局)	8.17	4	32	古墳	土器
27 鈴川第1遺跡①	菓子野町9446-1	その他開発(携帯電話基地局)	8.17	4	130	なし	なし
28 後向第1遺跡	高城町有水3078-13	農業関連事業(畜舎)	8.22	24	3,700	縄文	集石・土器・石器
29 花立遺跡	高城町大井手2012-1	その他開発(公有地売却)	8.30	12	680	なし	なし
30 平松遺跡①	高崎町笛水925-9.935-19	その他開発(送電線鉄塔)	9.11	2	1,923	なし	なし
31 木ノ下遺跡	高城町有水3356-4	その他開発(公有地売却)	9.11	12	1,893	縄文	集石・土器・石器
32 村ノ前遺跡	郡元町2834. 2835-1	宅地造成	10.5	10	3,669	中世	土師器・須恵器・滑石
33 平松遺跡②	高崎町笛水936-2	その他開発(携帯電話基地局)	10.23	4	100	旧石器	石器
34 上針谷・下針谷遺跡①	今町8923(今町小学校)	学校建設	10.25	4	1,387	なし	なし
35 鴉尾遺跡	今町7655-2外	農業関連事業(天地返し)	11.6	12	1,472	なし	なし
36 梅北片平遺跡	梅北町1975-1	個人住宅	11.7	4	393	なし	なし
37 梅北北原遺跡②	梅北町1874	農業関連事業(天地返し)	11.14	8	834	古代・中世	柱穴・土師器
38 女橋遺跡③	梅北町12594-1外	農業関連事業(天地返し)	11.28-29	24	20,908	縄文	土器
39 桶畑遺跡	梅北町3509外	農業関連事業(天地返し)	12.5	8	2,079	なし	なし
40 枠外(大王小学校)	大王町20-1	学校建設	12.12	3	1,787	なし	なし
41 枠外(江平小学校)	高崎町江平2338-1	学校建設	12.13	2	72	なし	なし
42 女橋遺跡④	梅北町12586-1外	農業関連事業(天地返し)	12.18	20	12,226	縄文・弥生	柱穴・土器
43 上針谷・下針谷遺跡②	梅北町520外	農業関連事業(天地返し)	12.19-20	24	5,083	縄文	土器
44 田辺開拓第2遺跡②	高城町有水1955-55	農業関連事業(畜舎)	12.25-27	58	4,219	縄文	竪穴状遺構・土器・石器

平成 24 年度 市内遺跡 試掘・確認調査一覧

都城市遺跡分布図



0 4km
1/100000

図1 平成24年度 市内遺跡 試掘・確認調査地点

2. 田辺開拓第2遺跡①・②

民間の畜舎建設事業に伴って実施された確認調査である。調査結果を考慮しながら事業計画の設計が進められたため、複数回にわたる確認調査を行う事となった。調査期間・面積等は「表1 平成24年度 市内遺跡 試掘・確認調査一覧」に記載している。以下、調査の概要を報告する。

位置と環境 田辺開拓第2遺跡は都城盆地の北縁にあり、宮崎平野部と都城盆地を隔てる山地帯の南端部、西流し大淀川へ合流する田辺川沿いに形成されたシラス台地面に立地している。この台地面は東西約300m、南北約500m、山地帯に接した北側を最高点に南へと傾斜し、南端部で高低差15m程度の崖面を経て田辺川へと至る。開発予定地は台地面の南半を占め、標高184～188m、現況は畑地である。

地形と層序 各トレンチにて観察された土層を相対的に再構成し、図3に模式化した。遺構・遺物が確認されたのは、1層(現耕作土・下位に霧島高原スコリア)、2層(黒褐色粘質シルト)、3a層(褐色粘質シルト)、3b層(黒褐色～暗褐色粘質シルト)である。2～3a層が遺物包含層の主体であり、3b層を遺構検出の基準とした。出土遺物は縄文時代後期土器を主体とし、ごくわずかな弥生土器、古代土師器が確認される。2層が霧島高原スコリア直下にある点、古代土師器(33)が出土している点より、2層を古代期が主体となる層、3層をそれ以前の層と把握した。

調査区の現況地形は北→南へ緩やかに傾斜し、西側(3区付近)にやや高い部分と中央(4t～5t)に大きく下る部分(谷地形部)がみられる。旧地形としては3区北半で14層(シラス)、東南部の10tで5層(鬼界アカホヤ火山灰)、11tで3a層まで削平されるため、中央の谷地形部の東西は現状以上に隆起していたと考えられた。また、2t・5tでは明瞭な霧島御池軽石(3a層や3b層)の堆積がなく、5層(鬼界アカホヤ火山灰)の堆積も不安定であり、様相が大きく異なる。5・6層～3a・2b層の間は、3a層・4層(2t)、3b1層・3b2層・4層(5t)が入り混じる層(土器片を含む)の堆積がみられた。

調査結果 竪穴状遺構 SA01 1-A区にて確認された。平面形態は不整な楕円形で、現存での長軸は1.7m、東は調査区外へと広がる。埋土は黄色軽石が混ざる暗褐色シルト、褐色シルトからなり、土器片を多く含む。SA01南側でも多くの土器片が出土するほか、通常とは異なる土層が続いており、別の遺構が存在していた可能性もある。

SA02・03 3区北端にて確認された。SA02の平面形態は不整な円形で、南・西は調査区外へと広がる。検出面からの深さは25cm程度であるが、掘り込み面(14層上面)からは60～70cmを測る。床面直上より石皿、埋土中より縄文土器片が出土している。SA03は検出のみに留めたが、SA02と同様の遺構と考えられる。当該地は下位より14層(シラス)、a～c層、2b層、1層の順で堆積し、a～c層はシラスが混じる褐色シルトが主体となる。a～c層の起源は不明だが、2b層直下に位置する点、縄文土器が包含される点より、3a層と同時期の形成と考えられ、遺構形成時には14層(シラス)が露出した状態であったと想定される。その要因は自然の土砂流出、人工的な削平の2種が考えられるが特定はできていない。

SA04 12tにて検出された。平面形態は不整な円形で、現存での長軸は約3m、南は調査区外へと広がる。検出面からの深さは約20cm。埋土は黄色軽石の多く含まれる暗褐色シルトであり、SA01と同様の様相に近い。埋土中より多数の土器片が出土したほか、北東壁付近の床面直上にて、伏せた形の深鉢4分の1程度の破片(1・宮之迫式土器)とその下より石棒状の石製品(34)が出土した。

これらの竪穴状遺構はいずれも竪穴住居の可能性が高いと考えられる。その位置は西側3区北端から東側12tにかけてであり、この範囲における遺構の集中が想定された(図3)。

畝跡 3t及び3区南端にて検出された。黒褐色粘質シルトを主体とする2a・2b層及びa層と、3層起源と考えられる褐色・暗褐色シルトを主体とするb・c層に大別され、いずれも攪拌されたような状態で分解が進む。2b層など黒褐色系層では土層断面Cのように明瞭な落ち込みが観察されるが、褐色系のb・c層では明瞭な落ち込みはみられない。落ち込みの形状や土質より、2a・2b・a層にみられる落ち込みは畝状遺構の可能性が考えられ、層位より古代期相当と捉えられる。b・c層は明確な落ち込みはみられないものの、3b1層上面に凹凸がある点や土質より、自然要因の可能性もあるが、耕作等の攪拌を受けている可能性も考えられた。また、8tにて観察される2b層主体の落ち込みも前記と同様の畝状遺構と考えられる。



図2 調査区位置図

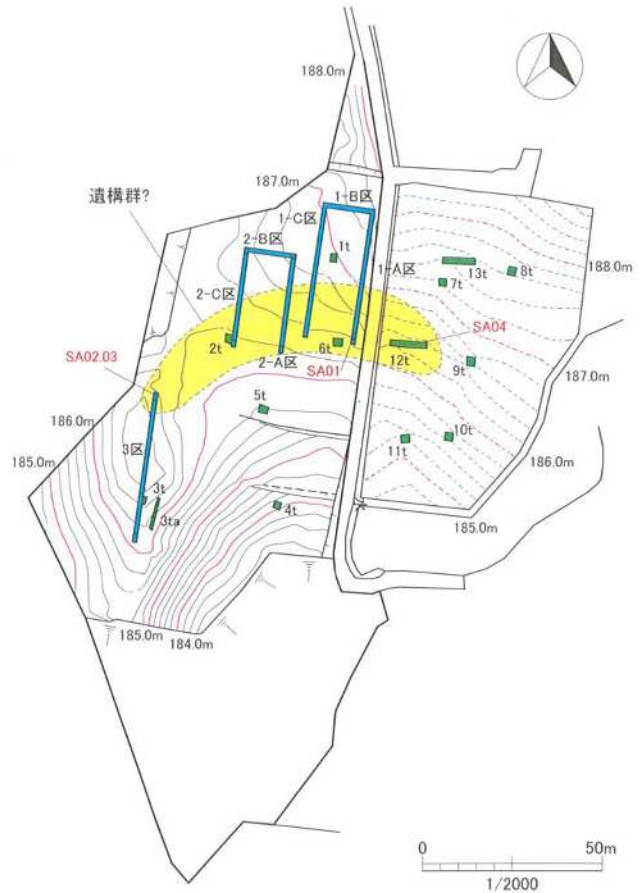


図3 調査区・トレンチ・遺構配置

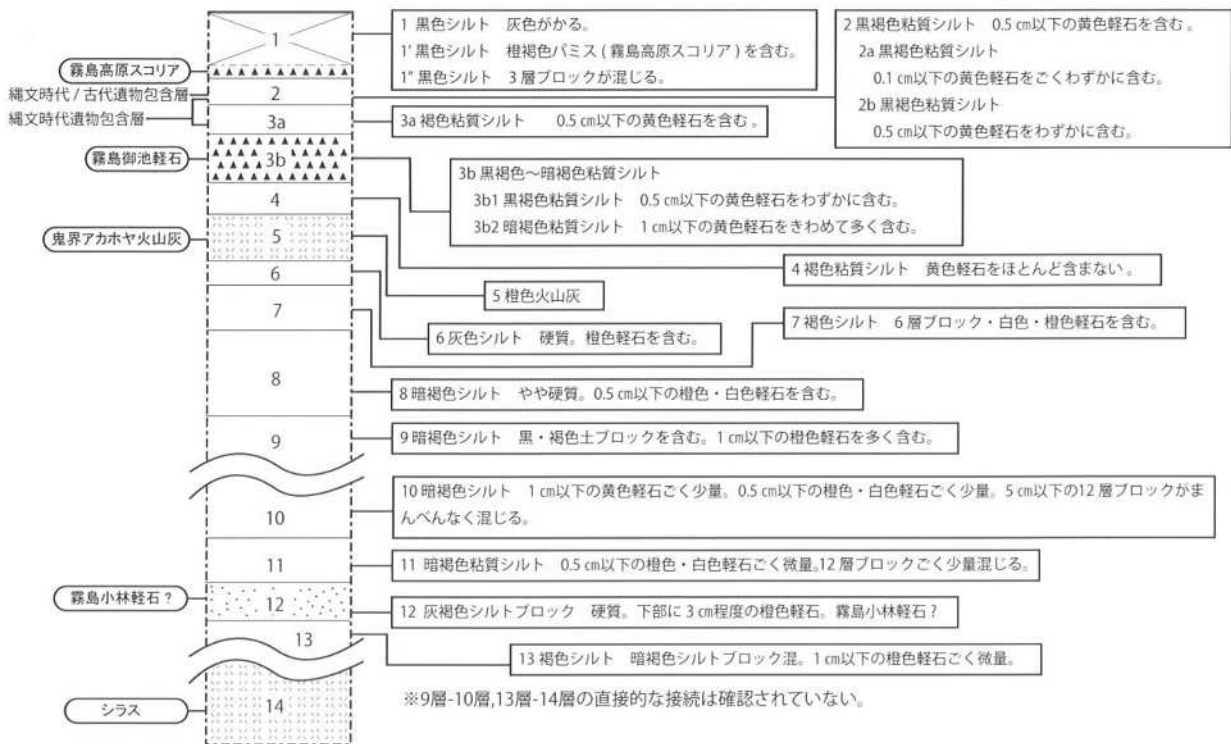


図4 土層模式柱状図

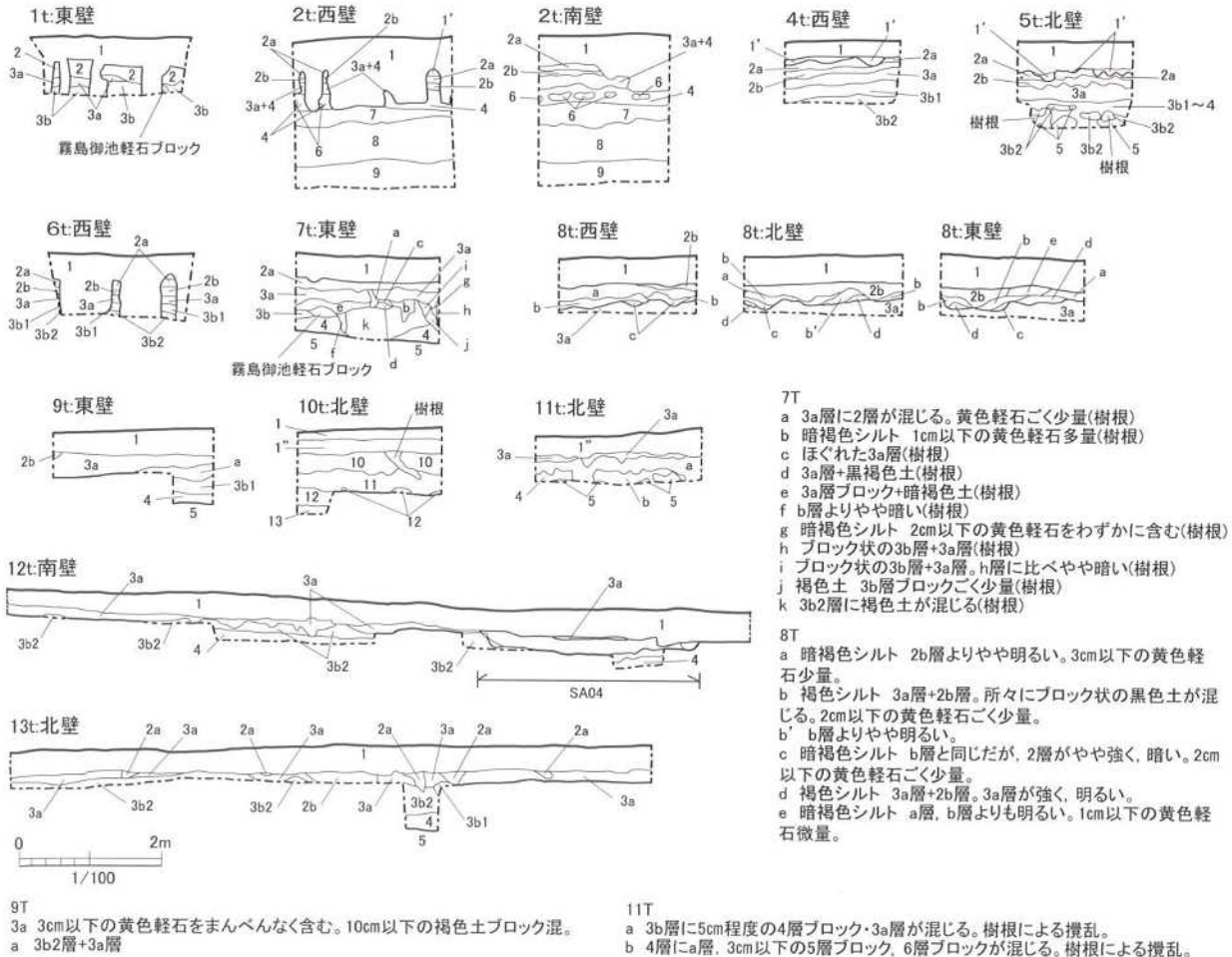


図5 トレンチ土層

遺物 土器 1～9は太い凹線文を文様の中心とし、口縁部肥厚帯に凹点文や貝殻腹縁刺突文を施す。宮之迫式土器⁽¹⁾に該当すると考えられる。10～14は2条の平行沈線を用いて直線的・曲線的な文様を巡らせる。指宿式土器に含まれると考えられる。15は肥厚した口縁部に沈線文・刺突文、胴部には2本の沈線文間に刺突文を施す。指宿式土器もしくは本野原式土器に該当すると考えられる。16～18は外反させた口縁部上の平坦面に沈線文・刺突文等を施す。16は頸部外面に短沈線による入組文を連続させる。内面施文土器に含まれると考えられる。19～25は口縁部断面形が三角形を呈し、その部分を文様帯とし貝殻腹縁刺突文、沈線文等を施す。市来式土器に含まれると考えられるが、19・20は文様構成等が15・16に近い。26は台付皿型土器で、わずかな赤色顔料の付着が観察される。27・28は内外全面に貝殻腹縁の調整を行う無文土器。29は草野式土器、30は丸尾式土器、31は鐘崎式土器に該当すると考えられる。33は土師器の高台付碗である。高台内に放射状の調整痕が観察される。

出土量では宮之迫式土器、指宿式土器、市来式土器が多くみられたが、10・19・20等のように分類が難しい例も多い。掲載遺物のみの観察であるが、1-A区～12tを中心とする宮之迫式土器、1-C区を中心とする市来式土器など、平面分布の偏在性も考えられた。なお、谷地形部に位置する4tでは、様々な土器が多量に出土しており、廃棄の場であった可能性も考えられる。また、2012年に実施された鹿児島大学の中村直子氏らの調査により、コクゾウムシ属甲虫圧痕等が検出されている。

石器 34は平面・断面形がいびつな三角形を呈し、上下部に横方向の線刻を一周させる。上下端に敲打痕がみられるが、使用痕がその他の要因かはわからない。現状では石棒状の石製品として把握しているが、石錘の可能性も指摘される。35は上部に穿孔が半分残るため垂飾品とした。白色の石材を使用し、全体を綺麗に磨く。中位を三段の蛇腹状に加工し、下部は丸みを帯びた四角形平面で下部断面は肥厚気味である。36は石棒の端部、38は円盤状石製品と考えられる。37は石鏃、39は石鎌である。

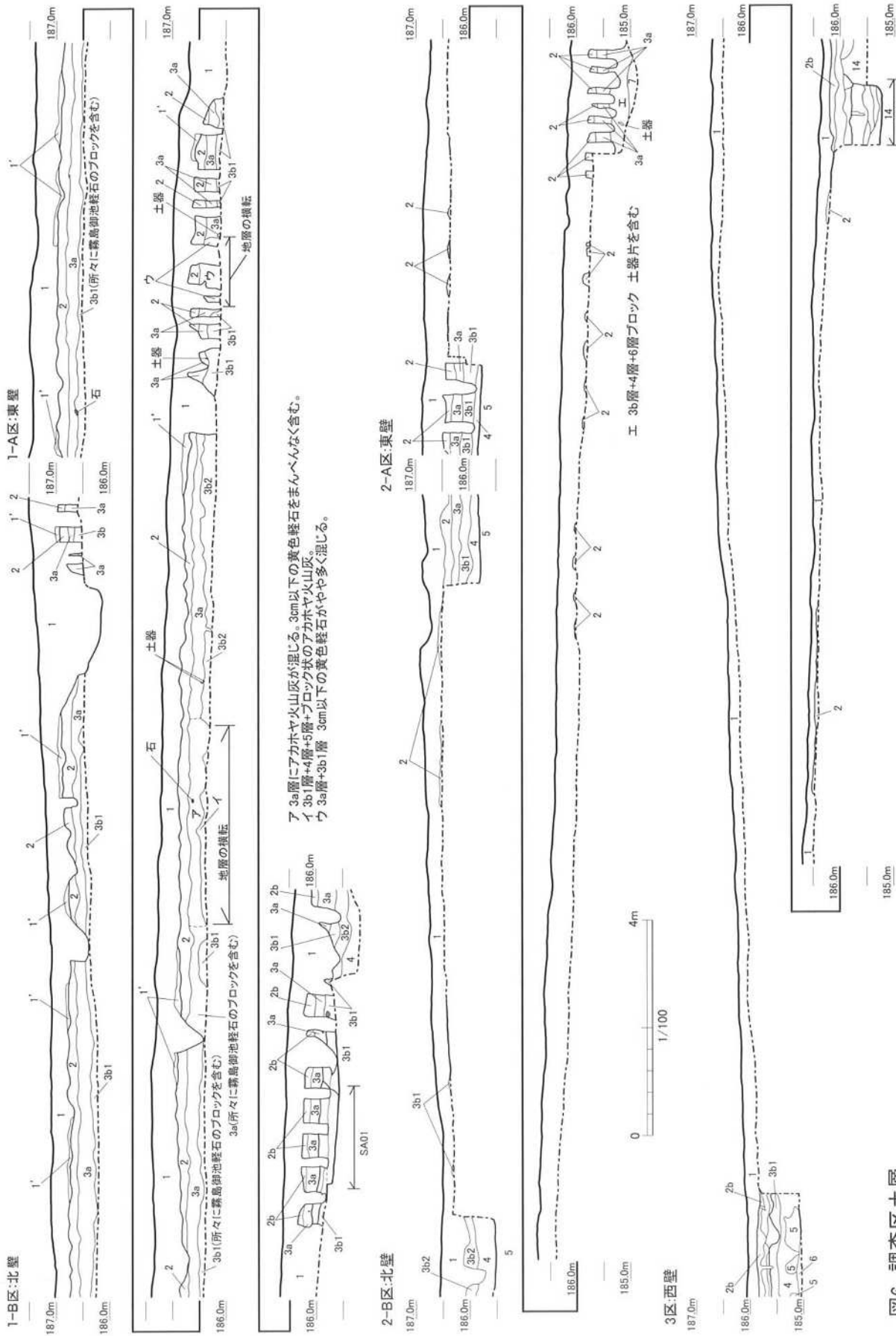
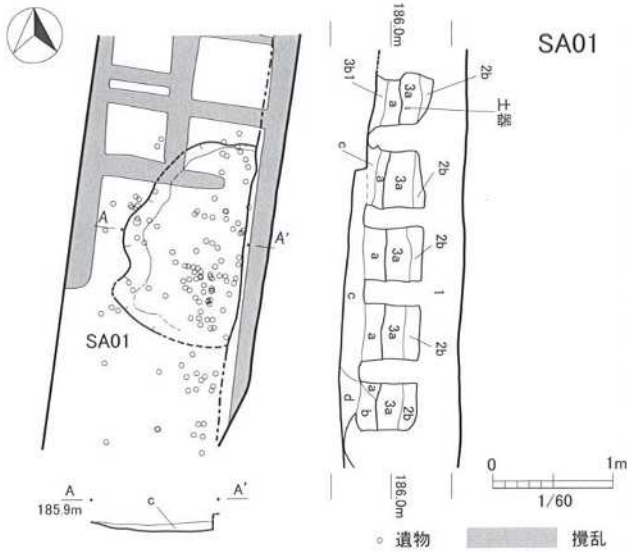
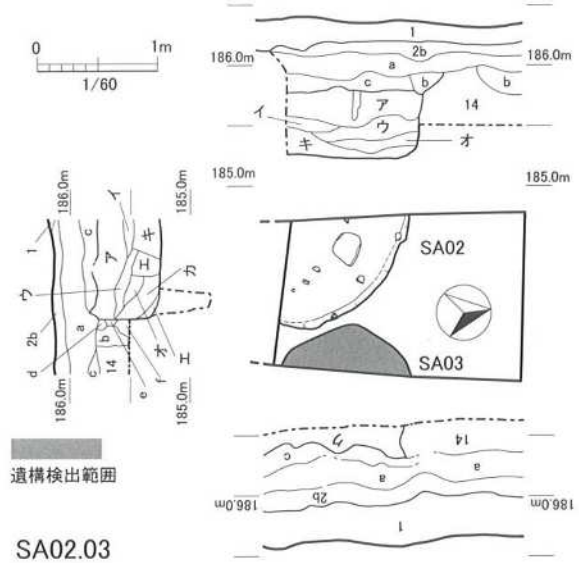
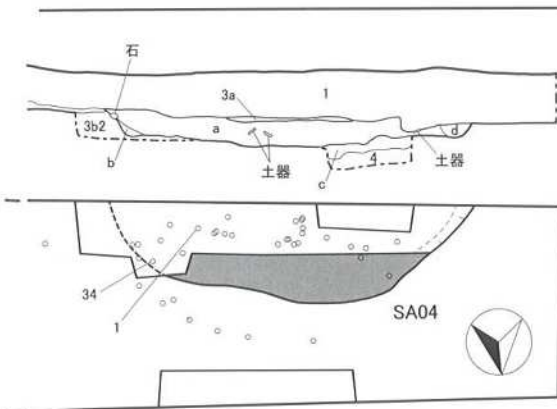


図6 調査区土層

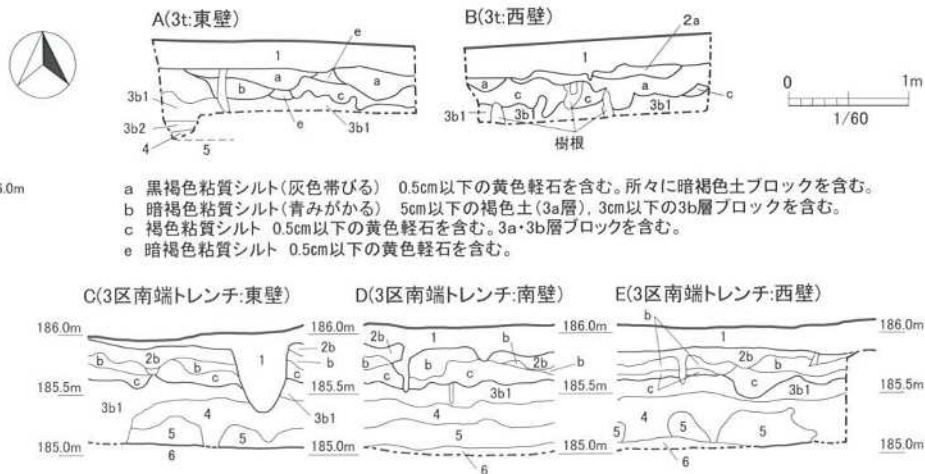
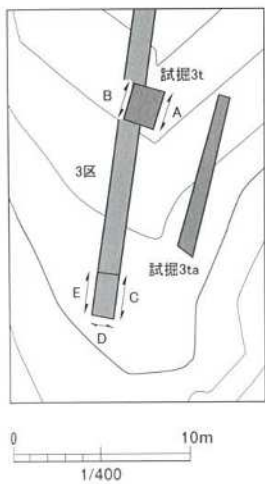


- a 暗褐色シルト 5cm以下の黄色軽石少量。ややブロック状に混ざる部分もあり。3b層より暗い。
- b 暗褐色シルト 3cm以下の黄色軽石やや多い。a層より暗い。炭化物微量。
- c 褐色シルト 1cm以下の黄色軽石、5mm以下の白色軽石を多く含む。5mm以下の炭化物、2mm以下の赤褐色粒子を含む。3b層より暗い。
- d 褐色シルト c層よりやや明るい。土器片含む。別の遺構埋土?



- a 褐色シルト 暗褐色土に褐色土がブロック状に混じる。白色粒(シラスか)、灰色粒ごく少量。
- b a層にシラスが多く混じる。ざらつく感触。樹根等。
- c 暗褐色シルト 褐色土がブロック状に混じる。白色粒少量。1cm以下の黄色軽石ごく微量。
- d b層+シラスブロック
- e b層とほぼ同じだがやや明るい。
- f シラス+b層
- ア 褐色シルト 3cm以下の黄色・白色軽石少量。シラスブロック混じる。灰色土ブロック混じる。
- イ 黒褐色シルト 3cm以下の黄色・白色軽石少量。土器片混じる。
- ウ 暗褐色シルト 3cm以下の黄色・白色軽石少量。
- エ オ層にシラスが多量に混じる。
- オ 褐色シルト 3cm以下の黄色・白色軽石ごく微量。
- カ 褐色シルト 3cm以下の黄色・白色軽石ごく微量。シラス混。
- キ 褐色シルト 3cm以下の黄色・白色軽石ごく微量。シラスブロックが多量に混じる。

- a 暗褐色シルト 1cm以下の黄色軽石やや多。
- b 暗褐色シルト a層に3b2層が混じる。
- c 3b2層+a層 やや硬く締まる。
- d 暗褐色シルト a層よりやや暗い。



- a 黒褐色粘質シルト(灰色帯びる) 0.5cm以下の黄色軽石を含む。所々に暗褐色土ブロックを含む。
- b 暗褐色粘質シルト(青みがかる) 5cm以下の褐色土(3a層), 3cm以下の3b層ブロックを含む。
- c 褐色粘質シルト 0.5cm以下の黄色軽石を含む。3a・3b層ブロックを含む。
- e 暗褐色粘質シルト 0.5cm以下の黄色軽石を含む。

畠跡土層

図7 竪穴状遺構・畠跡

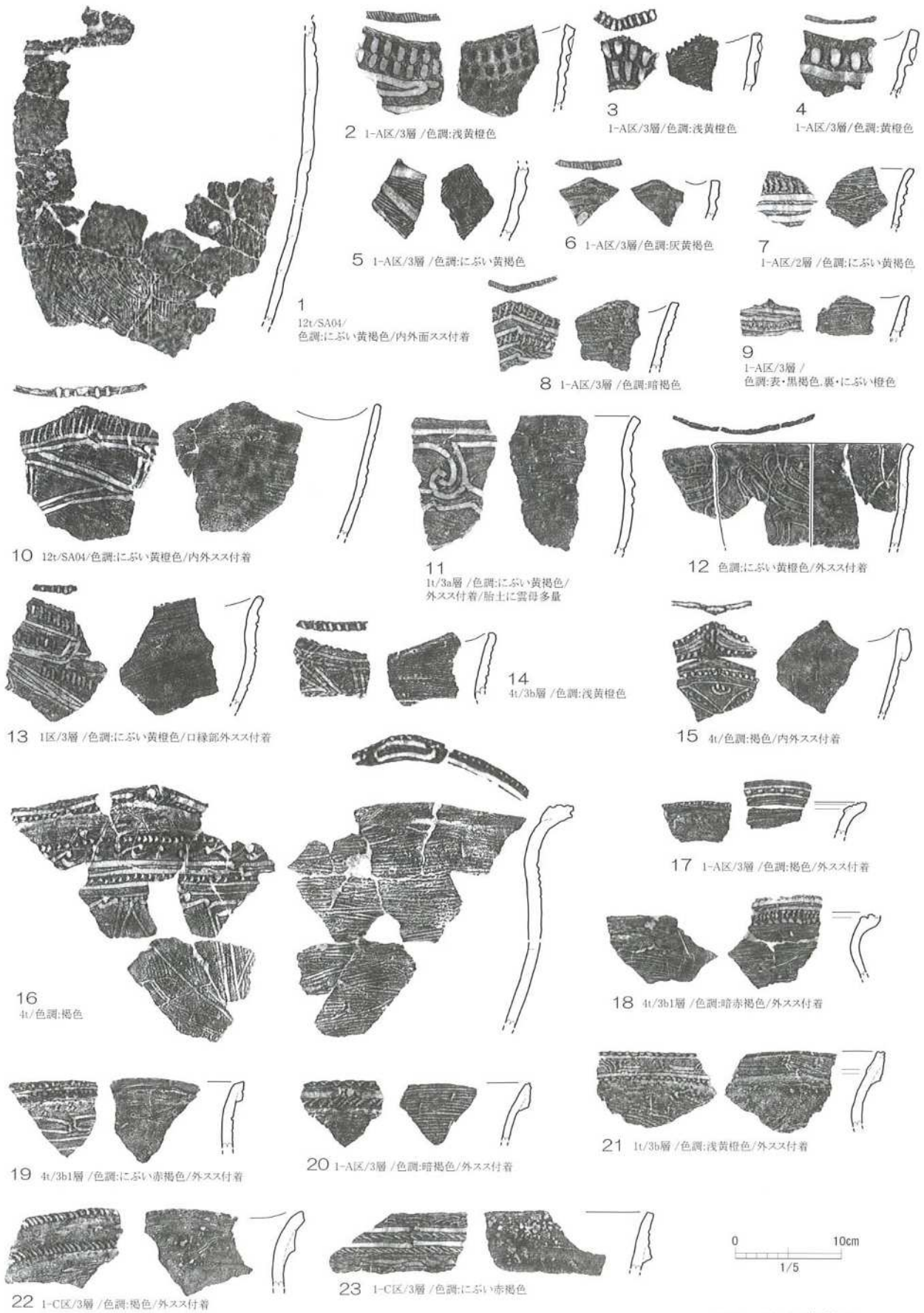


図8 出土遺物1

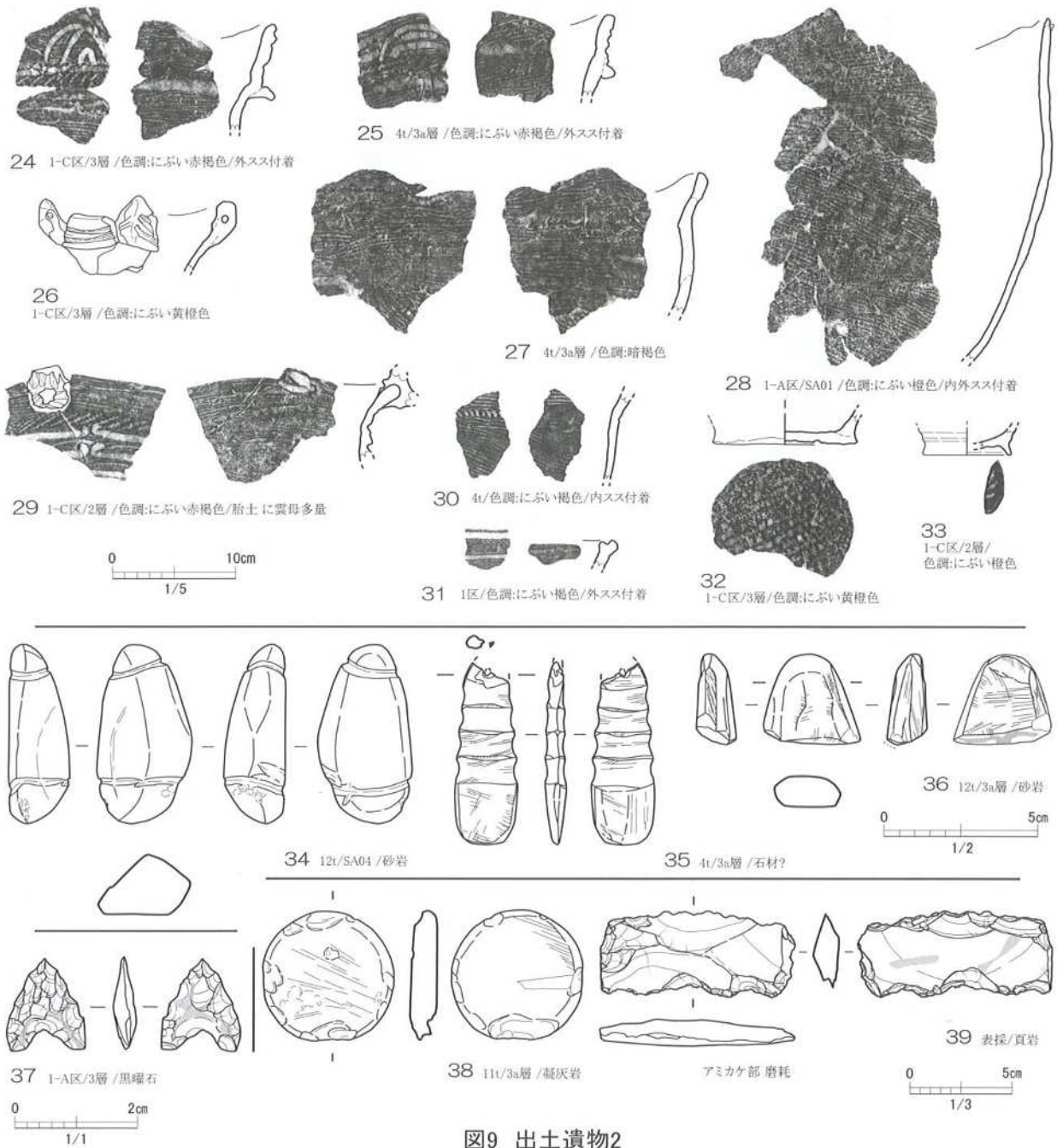


図9 出土遺物2

まとめ 田辺開拓第2遺跡は都城盆地北縁にあり、田辺川沿いに形成されたシラス台地面に立地している。今回の確認調査にて、多様な遺構・遺物の出土が確認された。

遺物の中心は縄文時代後期土器であり、出土量からは後期初頭の宮之迫式土器期から後期中葉の市来式土器期にかけてが主体期と考えられた。また、石棒状の石製品や垂飾品などの出土も特筆される。遺構は竪穴状遺構4基が確認され、いずれも竪穴住居の可能性が高い。その位置は西側3区北端から東側12tにかけてであり、この範囲に遺構が集中する可能性が考えられる。さらには多量の遺物が出土した4tは谷地形部にあり、北側平坦面の居住地域と谷部の廃棄の場といった土地利用も想起される。

これらの点より、当該地には縄文時代後期を中心とした集落の可能性のある遺跡が良好な状態で存在していると結論付けられる。

(1) 土器の分類・時期比定は「本野原遺跡三」宮崎市教育委員会2006を参考とした。また、報告書作成に当たって「宮崎縄文研究会」の諸氏より多大な御教授を頂きました。記して感謝申し上げます。



全景(北から)



SA01 遺物出土状況



SA01 遺物出土状況



SA02.03 遺物出土状況



SA04 遺物出土状況



石棒状石製品(34)出土状況



3区 土層C



1-B区土層



作業状況



16



2



11



12



15



21



25



34



35

図版 遺構・遺物

都城市文化財調査報告書 第110集

都城市内遺跡6

2013年3月

編集・発行 都城市教育委員会事務局 文化財課

宮崎県都城市菖蒲原町 19-1

郵便 885-0034 電話 (0986)23-9547

印刷・製本 株式会社 文昌堂

宮崎県都城市東町 18 街区 1 号

郵便 885-0052 電話 (0986)22-1121

